令和８年度　山口県立大学　看護栄養学部看護学科

学校推薦型選抜
地域貢献人材発掘枠
「総合問題」

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

注意事項

1　解答は全て解答用紙に記入してください。

2　試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。

3　不正行為について
① 不正行為については厳正に対処します。
② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験をとりやめさせ退室させます。

4　試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

問題１　以下の文章を読み、３ページの設問１～５に答えなさい。

子どもはみな、問いの天才だ。フィルターバブルに囲まれる前の存在は、見るもの触るものすべてが未知との（ア）遭遇なのである。『子どもは40000回質問する　あなたの人生を創る「好奇心」の驚くべき力』で、著者のイアン・レズリーは、子どもに生まれつき備わっている能力としての好奇心を、さまざまな角度から描き出してみせた。

好奇心にはふたつの側面があるという。目新しいものすべてに惹きつけられる「拡散的好奇心」と、目先の利益には必ずしもならない関心事を探究しようとする「知的好奇心」だ。一見場当たり的に思える拡散的好奇心こそが、知識の探究の第一歩になるという。

子どもは「なぜ？」「なに？」によって世界を探索することで、自分自身とも出会っていく。昆虫が(a) しょっかくをさかんに動かしながら周囲の環境を確かめるように、周囲の物事の位置関係や自分との間の距離感を測っている。人間は、他の動物と比べると著しく「遅く成長する生物」だが、やがて不確実な世界を生き抜くために必要な知性の下準備として、庇護された安全な環境下での「なぜなに」期間が必要なのだ。

こうした好奇心が駆動するには、（１）「少しだけ知っている」という状況が大事なのだと、レズリーは指摘する。知らないものには興味は向かないが、十分知っているものにも好奇心はわかない。無知と未知と既知の関係だ。けど、すでに十分に知っているはずのものでも、注意のカーソルが別の角度からあたっただけで、(b) いっしゅんにして輝く未知になることもある。

（中略）

好奇心は炎のようなものでもある。燃えるには燃料が必要だ。燃料にあたるのは、思考や知識、記憶や世界観だ。そこに、外部からのセレンディピティ*1)が飛来して、着火剤となって火がつく。いったん燃えたら、炎を絶やさないよう燃料を焚べ続けないとならないが、燃え続けている間は次々とエネルギーを生み出して、私たちをどこへでも連れて行ってくれる。

私たちの内側にある注意や関心は、本来自分自身を前に進めるための貴重な燃料だったはずだ。それがデジタルネットワークに吸い上げられるようになって以降、市場の「予測商品」を人工知能が加工するための燃料になってしまっている。ショシャナ・ズボフが指摘したのは、この転換だった。

ただ、危険視すべきなのは、デジタルネットワークやテクノロジーそのものではない。それらに(c) しんとうし、テクノロジーを動かす論理だ、とズボフは言う。ハン*2)もまた「民主主義の危機を招いているのは、アルゴリズム*3)によるインターネットのパーソナライズではなく、他者の消滅であり、耳を傾けることができないことなのだ」と書き添えている。

問題はテクノロジーの進化そのものではなく、テクノロジーによって人の好奇心を退化させ自らが肥大化していく経済社会的なロジックであり、そこに従う人々の無自覚と無関心なのだ。要はこの道具をどう使うのか、そこへの自覚が必要なのである。デジタルネットワークから絶え間なく流れ込んでくる情報に「拡散的好奇心」を(d) ろうひするに任せるか、そこから「知的好奇心」を立ち上げて未知なる探究へ突き進む自らの燃料に切り替えるか。

ズボフもハンも、人間の認知や好奇心を危機に晒(さら)すデジタル情報監視社会に（イ）警鐘を鳴らし、ゆるやかなディストピア*4)を鮮やかに描き出して見せた。そのリアリティたるや背筋が寒くなるが、だからといって何ができるというのか、この世界で生きる以外ないじゃないかという無力感にもさいなまれる。

けれど、少し立ち止まって考えたい。我々は本当に、そんなにも無力だろうか。社会を動かす巨大な力全体に立ち向かおうとすれば、たしかに途方に暮れる。待っていれば誰かがその支配構造を変えてくれるかといえば、そんなことはないし、むしろそうこうしている間にも情報支配社会は加速する一方だろう。だが、それぞれが自らの内側でこの状況に（ウ）反旗を（エ）翻す力は、問う生き物としての人間である以上、残っているはずだ。AIもアルゴリズムもデジタルネットワークも、使うのは人間だ。自分自身の想像力を主役にして、配役を決め直せばいい。そのためにどうしても必要なのが、情報を主体的に扱う「編集力」なのだ。（2）「問う」自由を自分自身の手もとに取り戻すつもりで編集力を駆動すれば、まどろみから目覚める赤い薬*5)は、日常のいたるところに落ちている。

私たちを覆うフィルターに穴をあけて、向こう側の世界にいつでも越えていける環境を整えよう。それを先導するのが、ほかでもない「未知」である。質のいい「未知」に出会うために、気になる人に会いに行く、見知らぬ場所に行ってみる、違う職種の人々と交流するなど、いろいろな方法があるだろう。どんな手段であれ、ちょっとした越境を起こす方向に自分を差し向けるつもりになるといい。昨今では、こうした境を越える出会いを積極的に起こそうと、企業では副業を（オ）奨励したり、学校では地域や外部人材と交流したりと、さまざまな環境づくりが(e)もさくされている。慣れ親しんだ風景から外に出るには、それなりの意図的なアクションが必要なのだ。

＊1：セレンディピティとは、偶然に思いがけない幸運な発見をする能力、またはその能力を行使すること。（図書館情報学用語辞典　第5版）
＊2：ハンとは、ドイツ在住の韓国人哲学者ビクチョル・ハン（1959-）のこと。
＊3：アルゴリズムとは、ある特定の問題を解いたり、課題を解決したりするための計算手順や処理手順のこと。（デジタル大辞泉）
＊4：ディストピアとは、反理想郷。暗黒世界。（デジタル大辞泉）
＊5：まどろみから目覚める赤い薬とは、映画「マトリックス」に登場する真実の世界を認識させる薬のこと。

出典：安藤昭子著；問いの編集力　思考の「はじまり」を探究する，株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン，2024，106-113頁，一部改変

設問１　下線部（a）～（e）のひらがなを漢字で書きなさい。

設問２　下線部（ア）～（オ）の漢字の読み仮名を書きなさい。

設問３　下線部（１）「少しだけ知っている」ことが好奇心の駆動になぜ必要なのか、無知、未知、既知の３つの言葉を用いて説明しなさい。

設問４　下線部（２）「問う」自由を自分自身の手もとに取り戻すつもりで編集力を駆動するには、どのような方法があると筆者は述べていますか。筆者の考えを述べなさい。

設問５　あなた自身が問いを見つけた経験と、その経験から学んだことを 400 字以内で書きなさい。

問題２　次の英文を読んで、５ページ以降の設問１～７に答えなさい。

Increasing visitor numbers alone could undermine the appeal of Japan's tourist destinations. It's time to pivot toward policies that protect people's livelihoods and enhance regional value.

Japan saw some 36.87 million inbound visitors in 2024, a record high. With the impact of the COVID-19 pandemic fading, the yen's weakness provided a tailwind in making Japan a more affordable travel destination.

Foreign visitors spent over 8 trillion yen (about $52.6 billion) in Japan during the year. This is akin to exports in terms of foreign currency acquired, making tourism the second-biggest earner after the auto industry.

The Japanese government has set a goal of welcoming 60 million visitors by 2030, but there are many outstanding issues. (ア) Problems like overcrowding, bad manners and increased waste are becoming serious in some areas. These issues not only give other travelers a bad impression, but also threaten residents' livelihoods.

The government is adopting steps to tackle overtourism, such as boosting train and bus services and standardizing pictograms to explain social etiquette. It is also ramping up efforts to spread information on regional destinations to balance out the concentration of tourists in specific areas.

However, with first-time visitors to Japan on the rise, the tendency for people to converge on traditional tourist spots like Tokyo and Kyoto is only getting stronger. Meanwhile, crowding due to "pilgrimages" to film and anime locations and the spread of information online has also become noticeable. Since these locations include residential areas, it's difficult to limit the number of visitors or take other such countermeasures.

There's a need to disperse crowds by providing detailed information through the development of apps that show congestion levels, for example.

Moves to levy accommodation taxes on travelers are also gaining traction, with 11 local bodies already having introduced them. The city of Kyoto plans to hike the maximum tax from 1,000 yen ($6.60) to 10,000 yen per night.

Such taxes fund infrastructure to receive inbound visitors, but with tourism's broad scope, even things like road maintenance could be included. If the range of the funds' use is unnecessarily broadened, municipalities could end up straying from the tax's main purpose of helping to ease congestion, among other related spending. (イ) Local governments should listen to the opinions of local residents and devise applications for the tax revenue that travelers would understand. It is also essential to ensure transparency, publicly disclosing how the funds are used.

(ウ) One of the appeals of tourism is that it can deepen mutual understanding between travelers and locals through exchange. It would defeat the purpose of tourism if it caused friction.

(エ) Japan should shift the focus of its goals from visitor numbers and spending to

customer satisfaction and better living environments. A move from quantity to quality is urgently needed.

出典： Editorial: Amid inbound surge, Japan must shift tourism's focus from quantity to quality, The Mainichi, February 11, 2025 一部改変
https://mainichi.jp/english/articles/20250211/p2a/00m/0op/010000c
(2025年6月23日アクセス)

注)
undermine いつのまにか害する； pivot toward 転換する； livelihood くらし
enhance 高める； inbound visitor 海外からの訪問者； tailwind 追い風
affordable 手ごろな； trillion 一兆； akin to 類似して
foreign currency 外国の通貨； tourism 観光旅行
earner お金になる仕事； overcrowd 混雑; boost 増大
standardizing pictogram 図像の標準化； etiquette 礼儀作法
ramp up 強化する； converge 集中する； pilgrimages 巡礼； noticeable 重要な
countermeasures 対応策； disperse 分散させる； apps アプリ
congestion 渋滞； levy accommodation taxes 宿泊税を徴収する
traction 牽引(けんいん)； infrastructure 基盤； scope 視野
municipalities 地方自治体； end up 結局～になる； stray 離れる
tax revenue 税収入； transparency 透明性； disclose 明らかにする
deepen 深める； friction 摩擦； amid 真っ最中に; surge 波のように押し寄せる

設問1 36.87 million を数字で書きなさい。

設問2 本文では、下線部（ア）によってどのような問題が起きると述べているか。日本語で書きなさい。

設問3 政府や自治体が行っている“overtourism”対策として、本文の内容と一致しているものには○、一致していないものには×をつけなさい。
(a) 特定の観光地に観光客を集中させる。
(b) 地方の観光地の情報発信を強化する。
(c) 来場制限をする。
(d) 京都市の1泊あたりの宿泊税の最高額を1,000円から10,000円に引き上げる予定である。

設問４　次の文章が本文の内容と一致しているものには○、一致していないものには×をつけなさい。

(a) 観光業はアニメやドラマなどのメディア輸出産業に次ぐ外貨獲得源となっている。

(b) 2024 年の inbound visitors の数は過去最多を更新したが、円高で日本が手ごろな旅行先になったことが追い風となった。

(c) 観光の魅力の一つは、名所を巡り歴史を知ることである。

(d) 宿泊税は旅行客の受け入れ態勢整備の財源となる。

設問５　下線部（イ）を日本語に訳しなさい。

設問６　下線部（ウ）についてどのように述べているか、35 字以内で日本語で答えなさい。

設問７　下線部（エ）を日本語に訳しなさい。

令和８年度　山口県立大学 看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　地域貢献人材発掘枠「総合問題」　出題の意図

【国語】

国語の問題文は、安藤昭子『問いの編集力　思考の「はじまり」を探究する』の中の一部である。情報が溢れている現在の状況の中で、学生は、他者と関わらずとも、一定の方法で答えを導き出すことができるようになっている。しかし、課題の答え方はわかるが、課題を導き出す「問い」を見出すことが難しくなってきている。問題文は、「問い」の重要性と「問い」を導き出すために何が必要なのかを論じている。

設問１，２では漢字の知識から国語の基礎的な学力（ＡＰ《知識》に関連》）を評価する。
設問３，４では、筆者の意図をこの文章から正確に読み取る読解力（ＡＰ《技能》ＡＰ《思考力・判断力》に関連）を評価する。
設問５では、自身の考えを述べる論理的思考力および制限字数内で文章を記述する表現力（ＡＰ《表現力》に関連）を評価する。

令和８年度　山口県立大学 看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　地域貢献人材発掘枠「総合問題」　出題の意図

【英語】

英語の問題文は、The Mainichi の Editorial: Amid inbound surge, Japan must shift tourism's focus from quantity to quality からの出題である。

この新聞記事では、インバウンドが過去最多による問題や混雑を避けるための取り組みが紹介されている。

本試験では、この文章を正確に読み取る理解力、読解力（AP《技能》に関連）を評価する。また、文中の情報を元に論理的に思考する力（AP《思考力・判断力》に関連）と文章中の語彙の意味を問う問題や文法的に正しい表現を記述する表現力（AP《表現力》に関連）および語彙力（AP《知識》に関連）を評価する。

令和8年度　山口県立大学看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　地域貢献人材発掘枠「総合問題」模範解答

◎　　◎　　◎　　◎

（5枚の1）

問題1

設問1

（a）	触　覚	（b）	一　瞬	（c）	浸　透
（d）	浪　費	（e）	模　索		

設問2

（ア）	そうぐう	（イ）	けいしょう	（ウ）	はんき
（エ）	ひるがえ（す）	（オ）	しょうれい		

令和8年度　山口県立大学看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　地域貢献人材発掘枠「総合問題」模範解答

◎　◎　◎　◎

（5枚の2）

設問3

無知なものには興味が向かず、既知なものにも好奇心はわかないが、すでに十分に知っているはずのものでも、注意のカーソルが別の角度からあたっただけで、またたく間に輝く未知になることもあるため、少しだけ知っていることが好奇心の駆動に必要である。

設問4

気になる人に会いにいく、見知らぬ場所に行ってみる、違う職種の人々と交流するなどの方法がある

令和8年度　山口県立大学看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　地域貢献人材発掘枠「総合問題」模範解答

◎　　◎　　◎　　◎

（5枚の3）

設問5　→横書き

100字
200字
300字
400字

令和8年度　山口県立大学看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　地域貢献人材発掘枠「総合問題」模範解答

◎　◎　◎　◎

（5枚の4）

問題2

設問1

36,870,000

設問2

旅行者が悪い印象を抱くだけでなく、住民の生活を脅かしてしまうこと

他の旅行者にも悪い印象を与えるだけでなく住民の生活をも脅かすという問題（直訳も可）

設問3

(a) ×	(b) ○
(c) ×	(d) ○

設問4

(a) ×	(b) ×
(c) ×	(d) ○

令和8年度　山口県立大学看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜　地域貢献人材発掘枠「総合問題」模範解答

◎　◎　◎　◎

設問5

地方自治体は地域住民の意見に耳を傾け、旅行者にも理解しやすい税収の運用方法を工夫するべきだ。

地方自治体は地域住民の意見に耳を傾け、旅行者にも理解しやすい税収の使途を

考案するべきだ（直訳も可）

設問6

交	流	に	よ	っ	て	旅	行	者	と	地	域	住	民	が	相	互	理	解	を
深	め	る	こ	と	が	出	来	る	こ	と									

設問7

日本は、目標の焦点を、観光客数や消費額から、顧客満足度とより良い生活環境へと転換すべきだ。量から質への転換が早急に必要とされている。